

村レベルの MDT の活動

5月初旬にチェンライ、パヤオ、チェンマイ県へ出張してきました。8月にチェンライとパヤオで開催予定のワークショップの準備のため、県事務所、シェルター、NGOの関係者との打ち合わせが主な目的でしたが、その他にも、来年度以降のプロジェクトの展開を考えるために、地域の活動についても話を聞きました。

その中で最も興味深かったのは、村レベルのMDTの活動について聞いたことでした。パヤオ県のチェンカム郡の二つの村を訪問し、それぞれの村のMDTの活動について話を聞かせることができました。これまで接してきたのは、中央や県レベルのMDTばかりでしたので、村レベルの話を聞いたのは初めてのことで貴重な体験でした。今回訪問した村は、人身取引被害者の対象になりやすいリスクグループが多い地域でしたので、村のMDTは予防活動に力を入れていました。MDTのメンバーは、僧侶、教師、女性グループ、青少年グループのリーダーなどで、ボランティアとして活発に活動しているらしいことが印象的でした。

最初に訪れた村では、お寺が中心となり、高齢者と若者を繋ぐ活動を進めており、これを



通じてコミュニティの絆を強めるとともに、同年代のグループの関係を強化し、異変や態度の変化に気づきやすくするなど、地道な予防活動を行っていました。また、伝統行事などを通じて自分の故郷を誇りに思う気持ちを育てることが予防につながるとも言われました。

次に訪れた村では、子どものネット利用の問題

についての取り組んでおり興味深いものでした。



タイの田舎でもインターネットのゲーム中毒、不登校、万引きなどの問題が起きており、また、チャットを通じて知らない男性と簡単に知り合い売春、人身取引被害にもつながり兼ねないなど、ネット利用の弊害が報告されているようです。しかし親はネットのことが分からないので、MDTが実態調査し、インターネット店の経営者に協力を呼びかけるなどの活動をしているそうです。

このように村のMDTでは、地元の方がボランティアとして大変熱心に活動をされているようでしたが、研修などに参加する機会はほとんどないとのことでした。今後プロジェクトが地方に展開するにあたって参考になる課題でした。

最近のタイのニュースより:

5月24日バンコク在住の日本人男性2名が、300人近くのタイ人を日本に密入国させた容疑で逮捕されました。日本の警察はすでに逮捕状を出していたようですが、容疑が人身取引か密入国かは報道により異なります。いずれにしても人身取引に加担していたのは間違いのないと思われます。人身取引は決してタイの問題ではないことを示すニュースでした。